

# 知求会ニュース

2020年9月

第75号

## ◎ 事務室移転

旧教養部時代から使用していた事務室のあった「国際学部事務室」は「峰キャンパス事務室」として、2020年7月1日付で5号館A棟1階手前から5号館C棟1階奥へ移転しました。

## ◎ 放送大学栃木学習センター面接授業

1. 超初心者のための韓国語入門      2020年11月14日（土）3時限～4時限  
2020年11月28日（土）3時限～4時限  
2020年12月05日（土）3時限～4時限  
2020年12月12日（土）3時限～4時限

佐々木史郎先生（国際学部名誉教授）

2. 感情と「多文化共生」      2021年01月09日（土）・10日（日）1時限～4時限

中村真先生（国際学部教授）

3. 外国人生徒の学びの場      2020年12月26日（土）・27日（日）1時限～4時限

田巻松雄先生（国際学部教授）

## ◎ 掲載記事紹介

1. 朝日新聞茨城版（令和2年3月24日）25面に、「翻訳アプリでコミュニケーション」の標題のもと、「外国人の保護者との交流 後押し」「つくばの若林さん 多言語を開発へ」「例文用意 スマホへ送信」の内容で若林秀樹先生の記事が掲載されました。
2. 日本経済新聞（令和2年8月12日）25面に、「大学 UPDATE 知の現場」コーナーにおいて『「多文化共生」人材巣立つ』の内容で宇都宮大学国際学部国際学科の記事が掲載され、湯本浩之先生・佐々木一隆先生のコメントが掲載されました。
3. 下野新聞（令和2年8月13日）11面に、「県の国際化推進計画検討」の標題において「戦略策定へ専門委協議」「宇都宮」の内容で記事が掲載され、座長に田巻松雄先生が選出されました。
4. UUnow 第50号（令和2年4月20発行）11頁に、「Welcometo 研究室&ゼミ」コーナーで「吉田研究室」の吉田一彦先生や染谷心さん(国際文化学科4年)らの記事が掲載されました。

## ◎ 国際学部だより

1. UUnow 第50号（令和2年4月20発行）15頁に、「Utsunomiya University News」のコーナーにおいて、宇都宮市主催の「大学生によるまちづくり提案発表会 2019」で

各研究室が表彰の内容で 1 位 [藤井広重研究室](#)と [研究サークル UIJP](#)(宇都宮国際平和と司法研究会)の記事が掲載されました。

2. UUnow 第 50 号 (令和 2 年 4 月 20 発行) 7 頁に、「特集 2 新入生応援企画 宇大生にきく！あなたのターニングポイントは？」コーナーで国際学部 4 年生 (取材当時 2020 年 2 月) の [塩原英佑](#)さん・[佐久間梓](#)さん・[吉田颯葉](#)さん・[宇賀神藍](#)さんらの記事が掲載されました。

**研究室訪問 54** 第 9 号から国際学研究科に関係する内外の先生方に寄稿をお願いしたコーナーを設けました。

**博士録 55** 第 22 号から国際学部、国際学研究科に関係する同窓生に寄稿をお願いしたコーナーを設けました。

**知究人 36** 第 9 号から特に、国際学部出身者で他大学院へ進学された方に、寄稿をお願いしたコーナー([ちきゅうびと](#))を設けました。

**海外だより 31** 第 27 号から国際学研究科、国際学部出身の海外在住者からの寄稿をお願いしたコーナーを設けました。

**海外留学今昔 32** 第 35 号から国際学部出身者および在学者を中心とした海外留学体験の寄稿をお願いしたコーナーを設けました。自薦・他薦を問いませんので、**海外留学経験者**および**海外留学中の在学者の積極的な情報提供**を事務局にお寄せ下さい。

**学生サロン 20** 知求会ニュース第 41 号より現役学部生によるコーナーを設けました。自薦・他薦を問いませんので、**現役学部生の積極的な情報提供**を事務局にお寄せ下さい。

## 「留学生アドバイザーの仕事を通して感じたこと」

松塚史郁

私は 2018 年 10 月から 2019 年 9 月まで留学生アドバイザーの代表を務めていました。アドバイザーの発足から数年がたち、当初とは活動の形も変わってきたと先輩方から伺いました。まずは、仕事の内容について簡単に紹介します。留学生アドバイザーの仕事は大きく分けて 2 つあります。1 つ目は、学期ごとに来日する留学生を駅まで迎えに行き、市役所での転入手続きをお手伝いする業務です。ここ数年、法改正や行政の仕組みの変化により、例年と同じやり方が通用しないことが増えました。2 つ目は、日本人学生と留学生の交流をするイベントの企画・運営です。日本人学生と留学生の交流接点は少なく、我々が企画するパーティーが今後関係を築くためのステップになるよう、イベントの内容を工夫

しました。実際に、我々が企画したイベントを通して知り合った日本人学生と留学生がプライベートで交流している様子を見ると、大変嬉しく思います。

来日する留学生のキャラクターは学期ごとに異なり、新しいやり方を模索しながら活動してきました。例えば、イベントの告知にはポスターを貼るのが従来の方法でした。しかしポスターを貼っても目に触れることがなく、集客が見込めないことがありました。そこで取り入れたのが LINE です。イベントの告知や予約を、普段使う LINE で行うことで、より多くの人にお知らせすることができました。また、アドバイザーの仕事を通して、やさしい日本語を使うことの大切さを知ることができました。英語母語話者ではないアジア圏の留学生と会話する際には英語ではうまくいかないこともありました。やさしい日本語を使うことで、誤った情報を伝達することが減り、英語力に自信の無いアドバイザーでも物怖じすることなく活動できます。

アドバイザーの活動を通して、言語や文化の違う人との関わり方を学ぶことができました。普段の授業や生活では日本人同士でコミュニティを作ってしまう、留学生と関わる機会は少なかったです。アドバイザーに身を置くことで、留学生と関わる機会を自主的に作ることができ、教科書や座学では学ぶことができない多文化共生を実践的に身に付けられたと考えます。今年は新型コロナウイルスにより、思い通りの活動ができていません。新しい形の活動で、留学生をサポートできるよう今後も尽力していきます。

(国際学部 国際学科 第1期在学学生)

(2020年8月18日原稿受理)

**キャリア指南15** 現役学部生に向けた企画として、宇都宮大学全学部から国際機関をはじめ、NGO・NPO や企業などで活躍する先輩方に執筆していただくコーナーを設けました。自薦・他薦を問いませんので、**キャリア指南にふさわしい卒業生の積極的な情報提供**を事務局にお寄せ下さい。

**フォーラム** 2020年の長月を迎えて、皆様忙しいことと思います。(原稿集めに苦労しています。)

### 「耳なし芳一」の地、下関から」

下関市立大学 特任教員

三成 清香

宇都宮大学大学院国際学研究科国際学研究専攻博士後期課程を2016年に修了した三成清香です。住み慣れた宇都宮を離れ、早いもので4年が経ちました。大学院修了後は栃木県内の大学で非常勤講師として働き、翌年、東大阪大学へと移りました。現在は山口県下関市にある下関市立大学にて勤務し、日本語教育に従事しています。自分の思いとは裏腹に、次第次第に宇都宮から遠ざかってしまっていますが、宇大での学びを生かし、多くの学生と楽しく交流しています。

下関は本州の端にある市で、自然豊かなところです。関門トンネル（下関と門司を結ぶ海底トンネル）を抜けるとすぐに九州に行くことができます。長年、「海なし県」で過ごした私にとって、すぐ近くに海があることはとても不思議で、下関側から九州を眺めるのが楽しみの一つになっています。

また、中国や韓国とも長年の友好関係があり、青島市や釜山市とは姉妹都市です。下関市立大学にも毎年多くの留学生がそれらの都市からやってきます。特に釜山はフェリーの定期便があるので、釜山に焼き肉を食べに行く人もいるほど、身近な場所となっています。昨年の 9 月には福岡から釜山への出張があったのですが、飛行機が飛び立ったと思ったらすぐに着陸態勢に入ったので、とても驚きました。下関に来て、大陸との近さを実感するようになりました。

さて、私は大学院生時代から、ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）の研究をしています。ハーンは下関に住んだことはなかったので、下関がハーン研究においてとりわけよい場所であるとは思っていませんでしたが、今となってはとても良い場所だと思っています。というのは、ハーンが過ごした松江や熊本へのアクセスが良いからです。昨年、初めて熊本へ行き、熊本の小泉八雲旧居を訪れました。松江の旧居とはまた違った趣があり、とても感動しました。熊本大学五高記念館は地震被害のため休館中でしたが、今後熊本でも多くの調査ができるだろうと考え楽しみにしています。また、下関の赤間神宮には「耳なし芳一」（*THE STORY OF MIMI-NASHI-HŌICHI*）*KWAIDAN* の〈芳一〉<sup>注</sup>もいます。下関の地で、〈芳一〉に見守られながらハーン研究を深められることは非常に幸運なことだと思っています。

ハーンは今からちょうど130年前の4月4日に日本にやってきました。そして神戸時代にはコレラの大流行に苦しむ人々の様子を描写しています（*In CHOLERA-TIME*）*KOKORO*）。新型コロナウイルスが猛威を振るっている昨今、130年前に彼が描いた日本と日本人の姿から再び学ぶべきことが大いにあるように思っています。最後に、この文章を読んでくださった方々の健康を下関の地から祈っております。

（国際学研究科 国際学研究専攻 第6期修了生 / 国際交流研究専攻 第7期修了生）

（2020年4月24日原稿受理）

編集者注：「赤間神宮 耳なし芳一像（撮影 三成清香さん）」の写真を国際学部同窓会 HP「コミュニティ広場」で見られます。

### 東南アジア支部だより

第63号から、タイ在住の**大畑美優紀**さん（国際学部社会学科第1期生・国際学研究科国際社会研究専攻第1期生）が発起人となり、国際学部同窓会および大学院国際学研究科同窓会の東南アジア支部としてニュースレターを創刊しました。2019年4月から、年4回から年2回発行（4月1日、9月1日）の変更になりました。第10号の主な内容は次の通りです。1. ご挨拶 2. お知らせ 3. 連載コーナー トコロ変わればザ☆談会

第三回 / No.10 タイの昨今ー渋滞ー大宮勇樹 / 狙えインスタ映え！？ 第6回アジア取材雑記 番外編：我々の血税で地熱大開発@ケニア 谷澤壮一郎 / 今旬のイチマイ  
第六回 ともに感じる東南アジア 大畑美優紀 東南アジア地域在住の同窓生は積極的に声を掛け合っていていただくことを祈念しています。

### EU 支部だより

第38号からイタリア在住の松原真実子さんによる知求会 EU 支部だより「Newsreel World」を発行してきました。今回の35号の内容は、1 コロナウイルス、ロックダウン中、オンラインで最も検索されたレシピ 2 コロナウイルス、自宅待機中に世界で最も調理されたレシピ 3 EU 支部だより 一日常が戻りつつあるイタリアーです。配信方法は、画像が掲載されているために別便で配信します。ファイル容量が大きいことで、ニュースレターが受信できない場合にはその状況をお知らせください。

### 編集者のひとりごと

- 今回、冒頭のニュースに「国際学部事務室」の移転を掲載しました。旧教養部時代からあった場所からの移転です。少子化や交付金の減少など、大学運営の厳しい中の判断だと聞いています。「峰キャンパス事務室」には農学部、教育学部、国際学部の三学部が一体となるように聞いています。4月時点での事務長が農学部と国際学部兼任だったことは、今回の移転に合わせた人事だったことがわかります。コロナ禍のため、編集者は新しい移転場所をまだ実見していません。なお、修了生・卒業生が「国際学部事務室」に用がある際には「峰キャンパス事務室」になりましたので、お間違いないように留意してください。
- コロナ禍の中、多くの学会・研究会活動などが中止に追い込まれた状況です。編集者が所属する学会、アート・ドキュメンテーション学会は6月27日（土）・28日（日）の両日にわたりオンライン（Zoom）によるシンポジウム・総会・学会報告が開催されました。また、7月11日（土）には第42回デザイン史学研究会もオンライン（Zoom）による研究報告がイギリス、日本からの2編が報告されました。通常の学会・研究会と遜色のない活動が行われました。なかなか遠方の場合、日時を調整するのが難しい中、新たな活動手段として、今後十二分に検証され、オフラインとオンラインが併用されていくのではないかと実感しました。

---

編集後記：2010年4月26日から **知求会ニュースのバックナンバー**は **国際学部同窓会 HP** (<http://www.afis.jp>) で見られるようになっています。

同窓会会員の皆様へのお願い：**住所、勤務先および携帯電話番号、メールアドレスの変更の際は事務局へメールして下さい。** [chikyukai@freeml.com](mailto:chikyukai@freeml.com)

---